



# 教育推進室だより

第6号

平成28年5月16日  
武蔵野市教育委員会  
指導課教育推進室  
電話60-1241

## 教室は〇〇〇〇ところだ

教育長 宮崎 活志

蒔田普二さんの詩「教室はまちがうところだ」を紹介する先生は少なくありません。

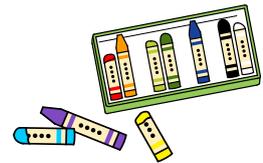
教室はまちがうところだ

みんなどしどし手を上げて

まちがった意見を 言おうじゃないか

まちがった答えを 言おうじゃないか ……

そんな言葉で始まります。全文954字。詩としてはなかなかの長編です。



教室で子どもたちが体験する心の動きをとらえ、それらをすべて肯定し、子どもたちに寄り添うようにして、励まし勇気づける言葉を重ねていきます。「まちがった意見を まちがった答えを ああじゃないか こうじゃないかと みんなで出しあい 言いあうなかでだ ほんとのものを見つけていくのだ そうしてみんなで伸びていくのだ」。これからの学習指導改善の要点とされる「アクティブラーニング」もすでにそこにあるようです。

詩の最後の「そんな教室作ろうやあ」という言葉は、子どもたちだけでなく、同業者である教師たちや教育委員会の委員、職員にまで届くメッセージです。

作者の蒔田さんは静岡県の出身。中学校の2年生を担当した時の学級新聞に初めてこの詩を書いたと言います。それから何年かたって、大阪の小学校3年生の学級から「安心してまちがいや！」という感想文集と一人一人からの手紙が届きます。蒔田さんは、中学生への呼びかけに小学校3年生が応えてくれたことに驚きます。その後、この詩はむしろ小学校の学級指導や群読などで活用されるようになり、現在は、絵本「教室はまちがうところだ」（長谷川知子・絵／子どもの未来社2004年）として、広く読まれています。

そこで、私もこの名詩の<sup>ひそみ</sup>鑿<sup>なら</sup>に倣い、「教室は〇〇〇〇ところだ」と考えてみます。

友だち大好きの子どもには「教室はたのしいところだ」。作品を先生からほめてもらった子どもには「教室はうれしいところだ」。理科の実験で意表を突かれた子どもには「教室はふしぎなところだ」。地域の方たちから凄ワザを見せられた子どもには「教室はおどろくところだ」。給食大好きな武蔵野の子どもたちには「教室はおいしいところだ」と感じられるかもしれません。子どもたちにとって大切な居場所である教室は、子どもたちに対して常に受容的、共感的であり、励まし勇気づける場所であってはなりません。そして、そのような教室を実現する最大のキーパーソンが教師であることは間違いありません。

武蔵野市のすべての学校の教室が子どもたちにとって最良の居場所になるよう、先生方をさまざまな面で支援するのが教育推進室です。教育推進室のスタッフは皆、子どもたちにとって、教室が「くやしいところ」「きれいなところ」「かなしいところ」などに絶対にならないよう、今年から新たにスタートした各学校の地域コーディネーターの皆さんとも力を合わせ、がんばっていきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

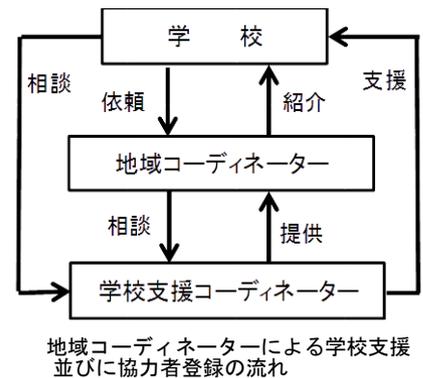
## いよいよ運用開始！地域コーディネーター

教育推進室では、昨年度より、開かれた学校づくり協議会代表者会や校長会で意見を伺いながら、「ネットワーク構築・コーディネート機能」の整備を進めてまいりました。

4月以降、学校ごとに校長先生方からご推薦いただいた18名の「地域コーディネーター」を対象とした第1回地域コーディネーター連絡会を、5月20日（金）に武蔵野市役所において開催します。当日は、委嘱式と業務説明を行う予定で、いよいよ運用が開始となります。

地域コーディネーターの皆様には、PTAや開かれた学校づくり協議会、青少年問題協議会等のご協力を得ながら、地域の人材発掘や交渉・調整等を行っていただくことにより、教育推進室の学校支援コーディネーターと連携しながら、学校への協力者の提供や支援を行う役割を担っていただくこととなります。

教育推進室では、今後、年2～3回程度、地域コーディネーター連絡会を開催し、学校ごとの地域の協力者の発掘状況や活用状況等について情報交換を行っていく予定です。また、それ以外にも、学校支援協力者リストの改訂や学校への協力者の紹介、セカンドスクール生活指導員やTA（ティーチング・アシスタント）等をお願いする大学生の紹介などを行う「ネットワーク構築・コーディネート機能」の向上を図りながら、学校の教育活動の支援や、教員の多忙化の解消を推進してまいります。



## むさしの教育シンポジウムを終えて

4月23日（土）、武蔵野市役所を会場に、「むさしの教育シンポジウム～未来を切り拓く意欲と責任感を育てる9年間の学校教育～」を開催いたしました。当日は、合計107名の保護者、地域、議員、市民の皆様、市立学校教員等に参加をいただきました。

シンポジウムは、宮崎活志教育長からの「深化・発展を続ける武蔵野市の教育をさらに広げる選択肢の一つとして『小中一貫教育』が検討材料になる」という挨拶で幕を開けました。千葉大学教育学部教授 天笠茂様には、「小中一貫で考える今の教育」をテーマに基調講演を行っていただきました。次に、指田和浩指導課長より小中連携教育推進委員会報告書の内容を基に、その概要について報告がありました。



分散会の様子



小中一貫校、凌風学園の取組紹介の様子

パネルディスカッションでは、「武蔵野市における小中一貫教育のあり方」をテーマに、まず、会場を3つの分散会で、参加者による協議を行い、多くのご意見等をいただきました。その後、全体会では、京都市立凌風学園長 稲田雅己様より、小中一貫校の取組についてご紹介をいただいた後、コーディネーターの宮崎教育長と、パネリストの天笠様、稲田様、市立第五小学校開かれた学校づくり協議会委員 藤井陽子様、山本ふみこ教育委員、指田指導課長により、分散会で出されたご意見等を踏まえ、協議が行われました。

教育委員会では、今回のシンポジウムをかわきりに、複数回の意見交換会を開催することにより、小中一貫教育の可能性について検討を進めてまいります。



元木靖則 調査・研究担当専門嘱託員 飯田信夫 教育アドバイザー  
＜臨時的任用教員担当＞

調査・研究      相談・支援  
研修      教育情報収集・発信  
ネットワーク構築・コーディネート

## 教育推進室

### 5つの機能が揃う

4月より調査・研究担当専門嘱託員を迎え、教育推進室が目指す機能が全て起動することになりました。調査・研究では、昨年度から試行実施をはじめたタブレットPCの効果検証や、全校実施から20年を経て、グッドデザイン賞を受賞したセカンドスクールの検証を再度行っています。武蔵野市の教育の方向性を示すためのデータや解決すべき課題を分析するなど、さらに充実した教育に資する機能として活動しています。

さらには、多くの定年退職者に伴う新規教員の採用が続き、多くの学校で、産休・育休の取得教員が出ています。その後補充として、臨時的任用教員の方の協力を得ていますが、ベテランの臨時的任用教員のみならず、教職経験のない方にもお願いせざるを得ない状態が生まれてしまう場合もあります。そこで教育推進室ではこの4月から、その臨時的任用教員の先生方を支援するための教育アドバイザーを配置し、学習指導や学級運営などを支援していくことにしました。



### サポート スタッフ (SS) ティーチング アシスタント (TA)

学生ボランティアが学校を支援します。

昨年度まで教育支援課で行っていた、SS（サポート スタッフ）及びTA（ティーチングアシスタント）事業を今年度から教育推進室が担当することになりました。

#### サポート スタッフ

通常の学級で、人との関わり方に困難を抱える児童に対して、臨床心理士などを目指す学生ボランティアを派遣するものです。担任や派遣相談員等との連携を図りながら、授業中の個別支援に加え、休み時間や給食・清掃の時間などにも支援を行い、学校生活の適応を図ります。

小学校からの申請に基づき学校訪問を行い、SSを希望する学生などとは採用面談を実施した上で、SSを学校に派遣します。

#### ティーチング アシスタント

教員を志望する学生などにより、小・中学生の学習支援や教員の指導補助を行うものです。学生などは校長との面談を経て、支援内容を決定しますが、教育推進室にも学生などからのTA登録票が届いていますので、各学校にご紹介しています。

派遣学生などは学校で実際に子どもたちに接し、そのスキルを磨きながら、将来の教職への理解を深めることができます。また派遣学生などからは「子どもたちの成長を実感し、やりがいを得られた。」との感想の言葉が届いています。

## 平成 28 年度の初任者研修が スタートしました

平成 28 年 4 月 1 日、26 名の新規採用教員の皆様が武蔵野市に着任しました。

かけがえのない子どもたちとの出会いに喜びを感じながら 4 月 12 日には 3 年間に及ぶ「若手育成研修」が始まりました。笑顔いっぱいの先生方が輝きにあふれていました。



よろしくお願ひいたします。

### シリーズ 初任の先生「今日もがんばる！」 <27年度初任者研修>

27 年度若手教員育成研修最終日は、初任者研修の閉講式と併せて、アドバイザーの先生方とのグループ研修が実施されました。閉講式では、指田和浩指導課長から「Challenge」「Change」「Communication」を大切に、木下雅雄統括指導主事からは「保護者を教員の応援団に」とエールをいただきました。その後のグループ研修では「子どもたちにどれだけ意欲をわきたたせる授業を組みたてることができたか」を中心に、日々の疑問点や課題についても話し合えた有意義な時間となりました。研修会後のアンケートにも「切磋琢磨できる教員を目指していきたい」など、初任の先生方から意欲に満ちた感想も寄せられました。先生方のますますのご活躍を期待しています。お疲れ様でした。



佐藤 幹夫アドバイザーと共に



荒木 俊夫アドバイザー・  
續 恭司アドバイザーと共に



島田 信行アドバイザー・  
小山田 謙アドバイザーと共に

### ～地域で活躍している団体紹介 <その5>～

## 出前授業いたします

東京ガス株式会社  
学校教育情報センター 所長 庄司 武



エネルギーに携わる企業として、未来を担う子どもたちに「エネルギーと環境の大切さを伝えたい」という強い思いをもっています。そのために、15 年前から学校教育支援活動を行っています。主な活動は子どもたちに向けた「出張授業」、先生方対象の「研修会」、そして学習サイト等による「教材提供」です。

「出張授業」では、社会科「くらしを支えるエネルギー」、理科「燃料電池」、家庭科「エコ食」などがあり、市内の小中学校でも実施させていただいています。

先生方の研修では、「エネルギーのベストミックス」という視点でエネルギーと環境への学びの機会をつくらせていただいています。

エネルギー・環境問題は、子どもたちにとっても今や身近な問題です。子どもたちに、「どう教えるか」から、学びの主体者となる「どう学ぶか」ということを意識しながら、出張授業を展開させていただいています。

また、機会があれば、江東区豊洲にあります「ガスの科学館」、小平市の「ガス資料館」も校外学習としてご活用いただければと思います。まずは「ガスワールド」で検索を！

お問い合わせは教育推進室または東京ガス(株)学校教育情報センターにお電話を

電話 0422-60-1241(教育推進室)

03-5310-5578(東京ガス(株)学校教育情報センター)



ガスワールドWEBサイト

### 【お知らせ】

今回の教育推進室だよりでお気づきの点やご意見がありましたら、ぜひ教育推進室までお寄せください。次号は「開かれた学校づくり協議会委嘱式」「地域コーディネーター委嘱式」の様子等を掲載する予定です。